

雌阿寒岳

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。

平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙活動（図2）

赤沼火口、北西斜面06噴気孔列及びポンマチネシリ96-1火口の噴煙の高さは火口縁上概ね100m以下で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

・ 地震活動（図2、図3、表1）

火山性地震は一日あたり0～2回で、地震活動は低調に経過しました。震源はポンマチネシリ火口の浅い所に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図4、図5）

GPS連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

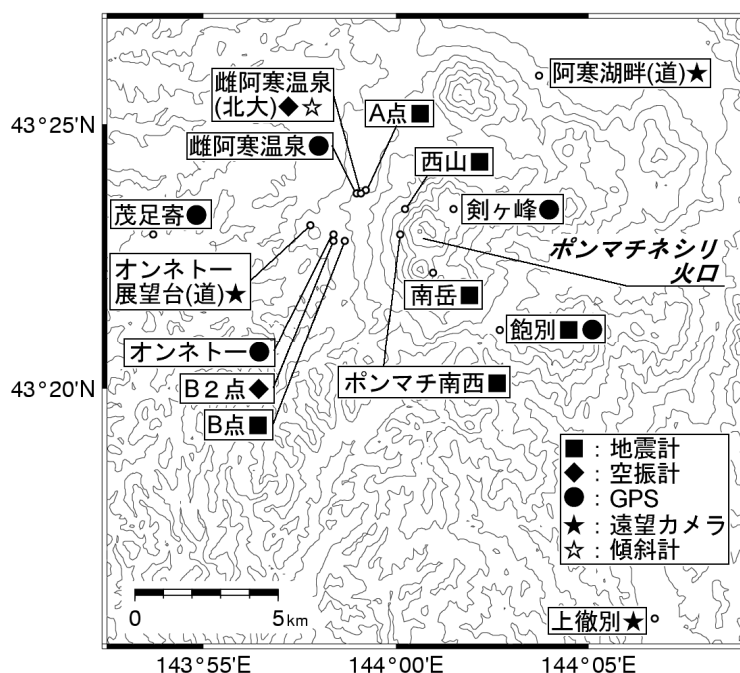


図1 雌阿寒岳 火山観測点配置図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.sapporo-jma.go.jp>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成20年1月分）は平成20年2月7日に公表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平17総使、第503号）。

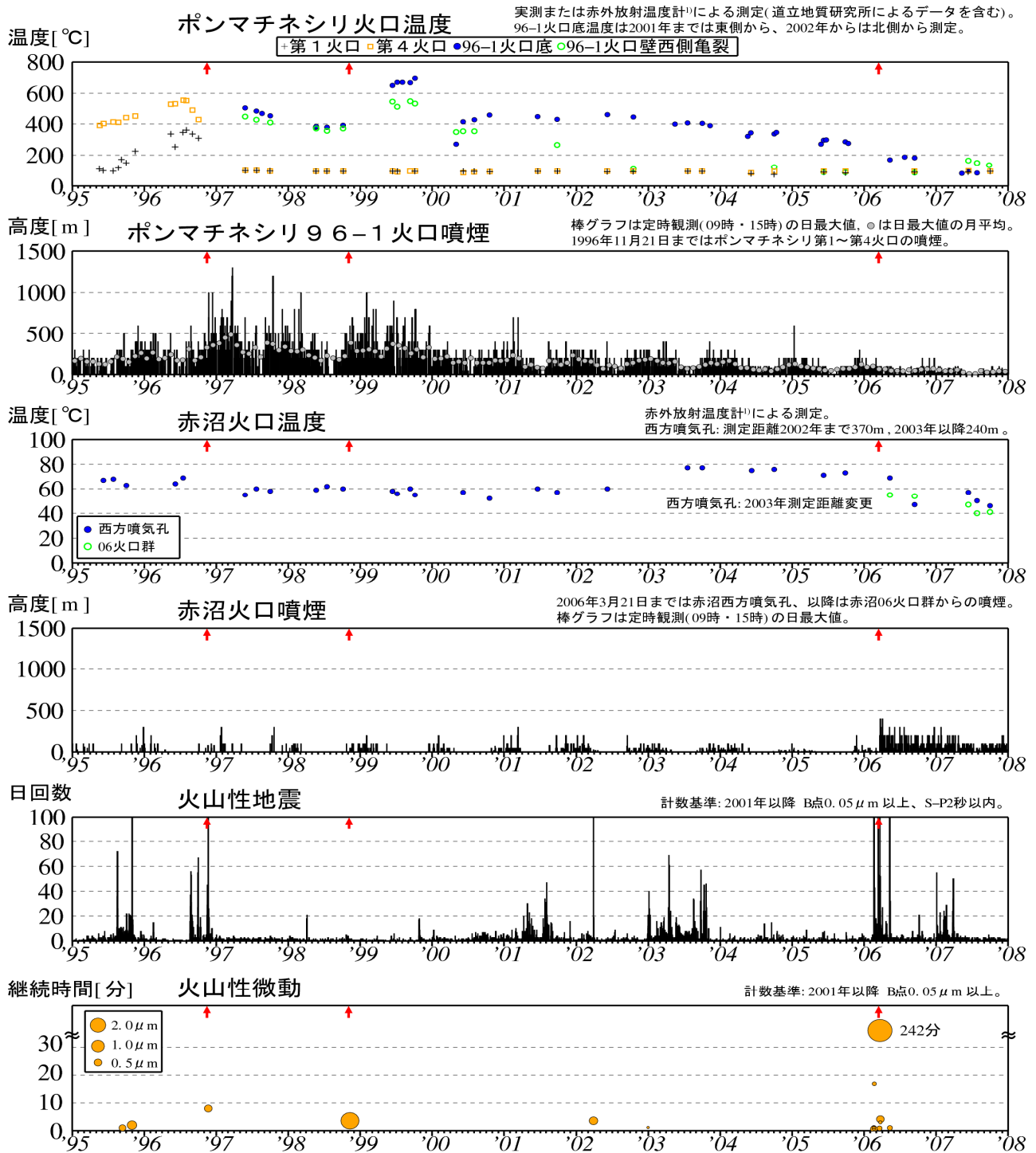


図2※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図 (1995年1月~2007年12月) ↑印は噴火
 (1996年、1998年: ポンマチネシリ火口からの噴火、2006年: 赤沼火口からの噴火)
 ・ポンマチネシリ 96-1 火口の熱活動、噴煙活動は2000年以降徐々に低下し、その傾向は2003年以降明瞭になっています。2006年3月の小噴火後もこの状況に変化は見られていません。
 ・赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006年3月の小噴火後は活発な状況でしたが、その後活動は次第に低下し、最近では静穏な状況で推移しています。
 ・地震活動は、2006年3月の小噴火の前後は活発な状態で推移していました。その後は、2007年1月~3月に一時的に地震が増加したほかは低調な状態で推移しています。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数 (B点: 図3のMEAB)

2007年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地震回数	195	228	213	67	32	28	32	18	32	32	23	26
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

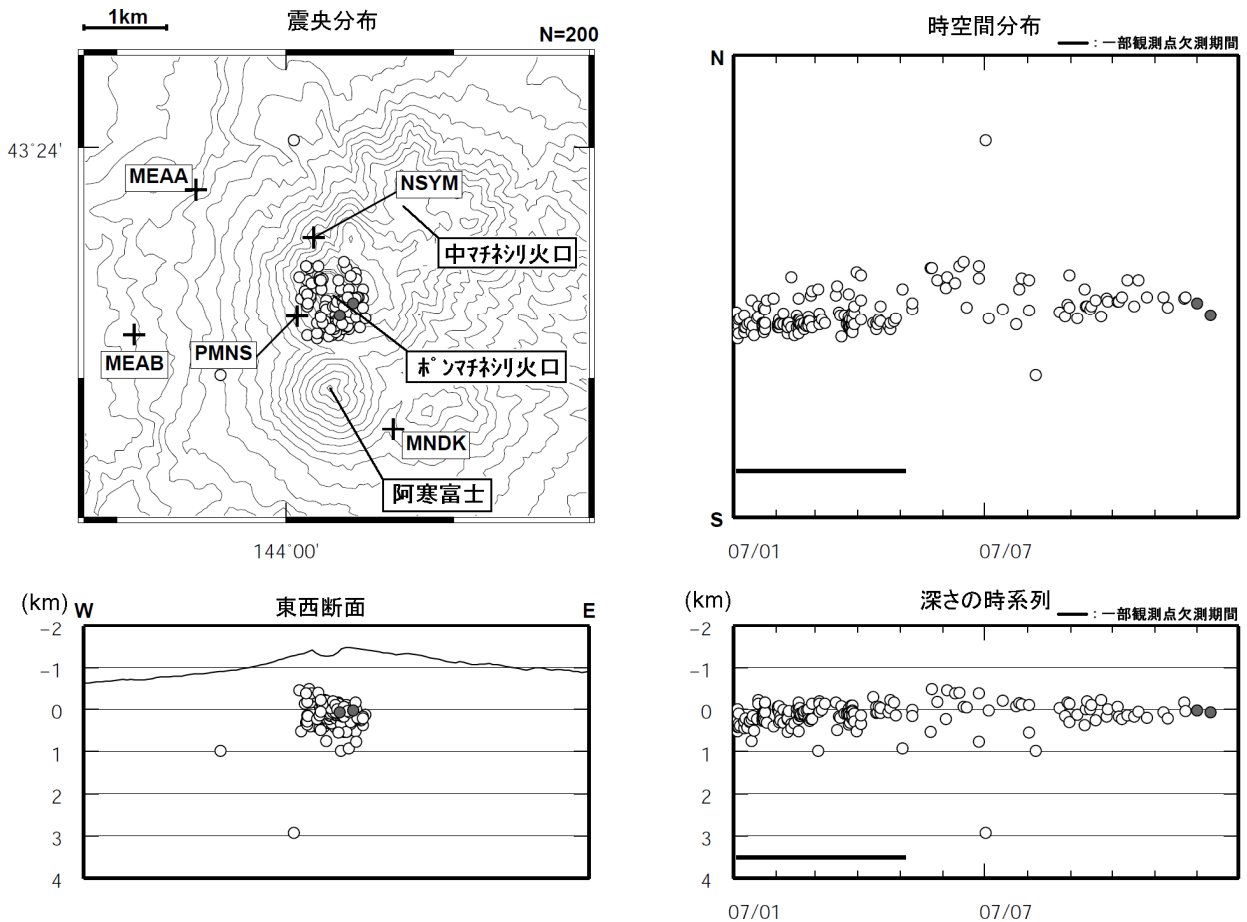


図3 雌阿寒岳 震源分布図(2007年1月~2007年12月、+は地震観測点)

2007年1月3日~5月5日にかけて一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

●印は今期間(2007年12月)の震源

○印は前期間までの11ヶ月間(2007年1月~2007年11月)の震源

・前期間までの震源の多くは、ポンマチネシリ火口直下の浅い所(山頂から深さ1~3km付近)に分布しています。今期間の震源もこの領域内に分布しています。

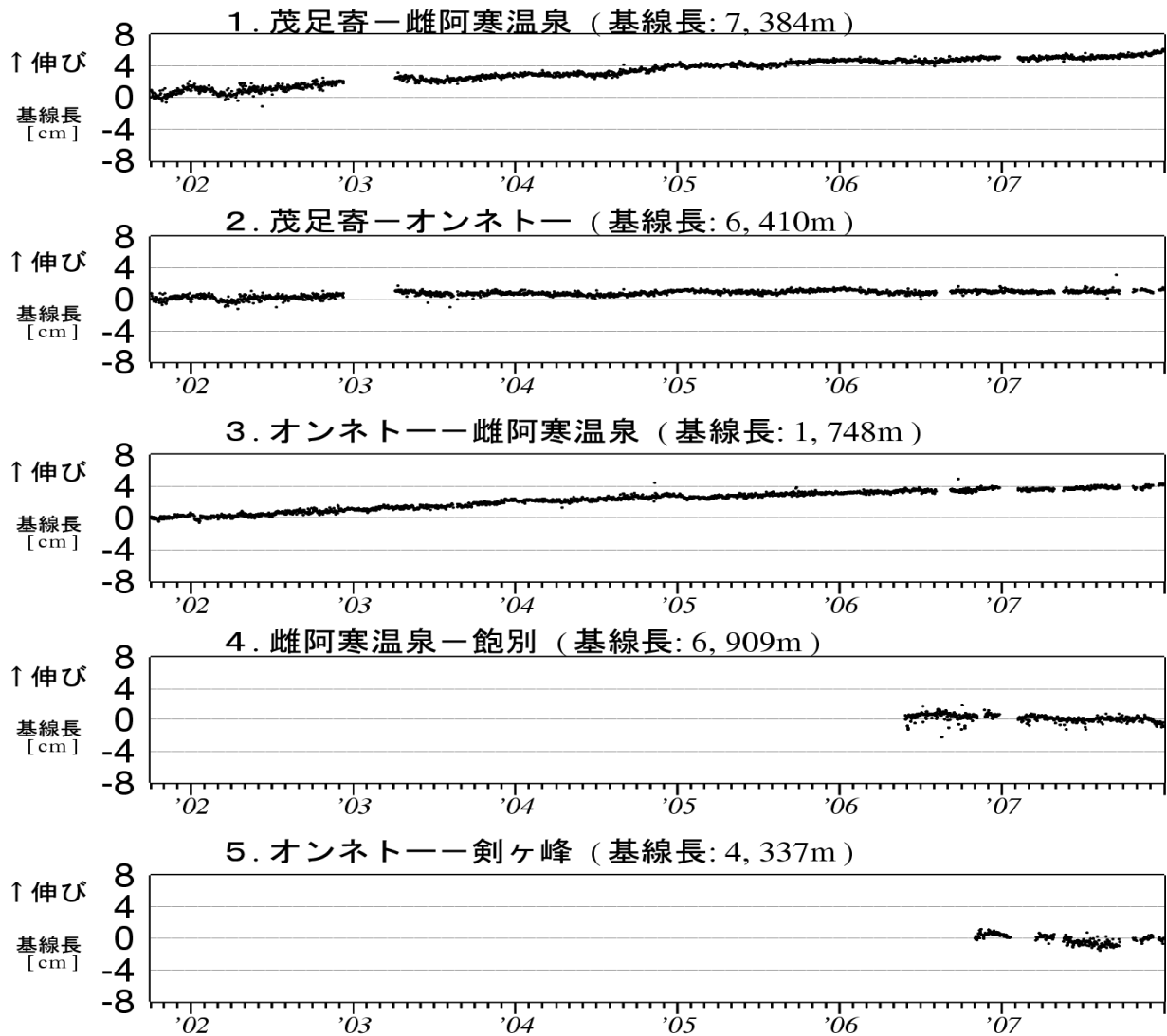


図4 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 10 月~2007 年 12 月)
 グラフの空白部分は欠測
 図4の1~5は、図5のGPS基線①~⑤に対応しています。

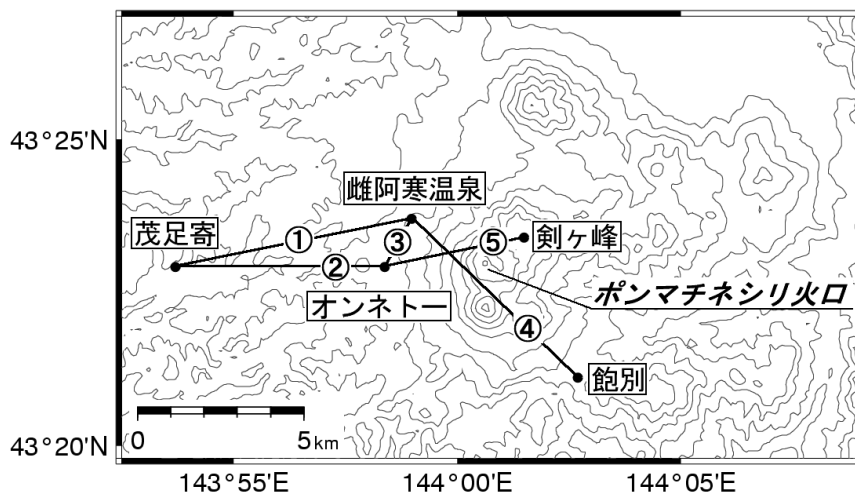


図5 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図